ポリシーの管理

この章は、次の項で構成されています。

- ポリシーについて，1 ページ
- サービスの提供について，1 ページ

ポリシーについて

ポリシーとは、システム リソースの可用性に基づいて、新しい仮想マシン（VM）がインフラストラクチャ内でプロビジョニングされる場所と方法を規定する一連のルールです。

Cisco UCS Director では、VM をプロビジョニングするために 4 種類のポリシーを設定する必要があります。SCVMM 統合の場合は、コンピューティング、ストレージ、ネットワーク、導入の Hyper-V ポリシーが必要です。

さらに、コスト モデルおよび OS ライセンスのサービス提供ポリシーがあります。

サービスの提供について

SCVMM 統合では、次のサービス提供情報を作成します。

- コスト モデル
- OS ライセンス
- Hyper-V の導入ポリシー

これらのタスクを実行するには、[ポリシー（Policies）] > [仮想/ハイパーバイザ ポリシー（Virtual/Hypervisor Policies）] > [サービスの提供（Service Delivery）] で各タブをクリックします。

コスト モデルの管理

アカウンティングをシンプル化するために、コスト モデルを定義できます。グループのインフラストラクチャ リソースは、コスト モデルに基づいてアカウンティングできます。

サポートされているインフラストラクチャ リソースのコスト（CPU、メモリ、ストレージ）と VM のコストを組み合わせて、VM ライフサイクルの総コストを決定します。

コスト モデルでは次のようなコストを定義します。

- 1 回限りのプロビジョニングのコスト
- アクティブな VM と非アクティブな VM のコスト
- プロビジョニング済み CPU、予約済み CPU、使用済み CPU のコスト
- プロビジョニング済みメモリのコスト

ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー（Policies）] > [仮想/ハイパーバイザ ポリシー（Virtual/Hypervisor Polices）] > [サービスの提供（Service Delivery）] を選択します。

ステップ 2 [コスト モデル（Cost Model）] タブをクリックします。
Cisco UCS Director のコスト モデルが表示されます。[コスト モデル（Cost Model）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
[更新（Refresh）]	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
[追加（Add）]	Cisco UCS Director に新しいコスト モデルを追加します。

コスト モデルを選択すると、以下のアクションが表示されます。

ボタン名	説明
[表示（View）]	コスト モデルを表示します。
[編集（Edit）]	コスト モデルを編集します。
[削除（Delete）]	コスト モデルを削除します。
[複製（Clone）]	コスト モデルを複製します。

コスト モデルの追加

ステップ 1 [コスト モデル（Cost Model）] タブに移動します。
[コスト モデル（Cost Model）] タブに移動する方法については、コスト モデルの管理, （2 ページ）を参照してください。

ステップ 2 [追加（Add）] をクリックします。

ステップ 3 [コスト モデルの追加（Add Cost Model）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[コスト モデル名（Cost Model Name）] フィールド	コスト モデル名。
[コスト モデルの説明（Cost Model Description）] フィールド	コスト モデルの説明。
[コスト モデルタイプ（Cost Model Type）] ドロップダウン リスト	コスト モデル タイプとして [HyperV] を選択します。
[請求期間（Charge Duration）] ドロップダウンリスト	変更の頻度として [毎時（Hourly）]、[毎日（Daily）]、[毎週（Weekly）]、[毎月（Monthly）]、または [毎年（Yearly）] を選択します。 （注） このダイアログボックスの残りのフィールドは、すべて時間単位で定義されます。
固定コスト（Fixed Costs）	
[一括での支払いのコスト（One Time Cost）] フィールド	VM のプロビジョニングの 1 回限りの固定コスト。
VM コスト（VM Costs）	
[アクティブな VM のコスト（Active VM Cost）] フィールド	アクティブ状態の VM の時間単位のコスト。

名前	説明
[非アクティブな VM のコスト（Inactive VM Cost）] ドロップダウン リスト	非アクティブ状態の VM の時間単位のコスト。
CPU コスト（CPU Costs）	
[CPU チャージ ユニット（CPU Charge Unit）] ドロップダウン リスト	CPU チャージ単位として [GHz] または [コア（Cores）] を選択します。
[プロビジョニング済み CPU のコスト（Provisioned CPU Cost）] フィールド	CPU チャージ単位（GHz）あたりのプロビジョニング済み CPU のコスト（時間単位）。コストはアクティブな VM に適用されます。
[使用済み CPU コスト（Used CPU Cost）] フィールド	実際の CPU 使用率に基づく、1 時間あたりの使用済み CPU のコスト。コストはアクティブな VM に適用されます。 （注） このコストには、プロビジョニング済みおよび予約済みのコストは含まれません。[使用済み CPU コスト（Used CPU Cost）] に値を入力した場合は、プロビジョニング済みコストと予約済みコストのフィールドは空白にしてください。プロビジョニング済みコストと予約済みコストを指定している場合は、CPU コストを空欄にする必要があります。
[CPU コア コスト（CPU Core Cost）] フィールド	VM に割り当てられたコアあたりの CPU のコスト（時間単位）。
メモリ コスト（Memory Costs）	
[プロビジョニング済みメモリのコスト（Provisioned Memory Cost）] フィールド	1 GB あたりのプロビジョニング済みメモリのコスト（時間単位）。コストはアクティブな VM に適用されます。 （注） メモリのコストは CPU のコストと同じ方法で算出されます。
[使用済みメモリコスト（Used Memory Cost）] フィールド	1 GB あたりの予約済みメモリのコスト（時間単位）。コストはアクティブな VM に適用されます。
ストレージ コスト（Storage Costs）	
[コミット済みストレージコスト（Committed Storage Cost）] フィールド	アクティブな VM および非アクティブな VM の 1 GB あたりのコミット済みストレージのコスト（時間単位）。

名前	説明
[使用済みストレージ コスト（Used Storage Cost）] フィールド	アクティブな VM および非アクティブな VM の 1 GB あたりの予約済みストレージのコスト（時間単位）。

ステップ 4 [追加（Add）] をクリックします。

OS ライセンスの詳細の管理

[OS ライセンス（OS License）] タブを使用して、Windows OS ライセンス キーのデータを追加できます。これらのライセンス キーは VM プロビジョニングで使用され、カタログの作成中に Windows VM イメージにマッピングされます。

（注） [HyperV システム ポリシー（HyperV System Policy）] で Windows ライセンス キー情報を入力した場合は、[OS ライセンス（OS License）] タブに入力したライセンス キーによってその値が上書きされます。

ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー（Policies）] > [仮想/ハイパーバイザ ポリシー（Virtual/Hypervisor Policies）] > [サービスの提供（Service Delivery）] を選択します。

ステップ 2 [OS ライセンス（OS License）] タブをクリックします。
Cisco UCS Director の OS ライセンスが表示されます。[OS ライセンス（OS License）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
[更新（Refresh）]	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
[追加（Add）]	Cisco UCS Director に OS ライセンスを追加します。

OS ライセンスを選択すると、以下のアクションが表示されます。

ボタン名	説明
[表示（View）]	OS ライセンスを表示します。
[編集（Edit）]	OS ライセンスを編集します。
[削除（Delete）]	確認後に OS ライセンスを削除します。
[複製（Clone）]	OS ライセンスを複製します。

OS ライセンスの詳細の追加

ステップ 1 [OS ライセンス（OS License）] タブに移動します。
[OS ライセンス（OS License）] タブに移動する方法については、を参照してください。

ステップ 2 [追加（Add）] をクリックします。

ステップ 3 [ライセンスの詳細の追加（Add License Details）] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Windows のバージョン名（Windows Version Name）] フィールド	Windows バージョン名。
[ライセンス（License）] フィールド	Windows 製品 ID またはライセンス キー。 （注） キー管理サービス（KMS）クライアント セットアップ キーも使用できます。
[ライセンスの所有者名（License Owner Name）] フィールド	Windows ライセンス所有者の名前。
[組織（Organization）] フィールド	VM に設定する組織。
[ライセンスモード（License Mode）] ドロップダウン リスト	ライセンス モードとして、[シート別（Per-Seat）] または [サーバ別（Per-Server）] を選択します。

名前	説明
[ライセンス取得済みのユーザ数（Number of licensed Users）] フィールド	ライセンス ユーザまたは接続の数。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

Hyper-V 導入ポリシーの管理

HyperV 導入ポリシーでは、次のようなシステム固有の情報を定義します。

- VM 名を自動作成するための VM 名テンプレート
- ホスト名テンプレート
- VM イメージのタイプ
- OS ライセンス プールの製品 ID
- ポリシーを使用する導入のタイム ゾーン
- このポリシーによる導入に使用されるドメインおよび/またはワークグループ

ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー（Policies）] > [仮想/ハイパーバイザ ポリシー（Virtual/Hypervisor Policies）] > [サービスの提供（Service Delivery）] を選択します。

ステップ 2 スクロールして、[HyperV の導入ポリシー（HyperV Deployment Policy）] タブを探してクリックします。Cisco UCS Director の Hyper-V 導入ポリシーが表示されます。[HyperV の導入ポリシー（HyperV Deployment Policy）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
[更新（Refresh）]	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
[追加（Add）]	Hyper-V 導入ポリシーを追加します。

OS ライセンスを選択すると、以下のアクションが表示されます。

ボタン名	説明
[表示（View）]	Hyper-V 導入ポリシーを表示します。
[編集（Edit）]	Hyper-V 導入ポリシーを編集します。
[削除（Delete）]	Hyper-V 導入ポリシーを削除します。
[複製（Clone）]	Hyper-V 導入ポリシーを複製します。

Hyper-V 導入ポリシーの管理

HyperV 導入ポリシーでは、次のようなシステム固有の情報を定義します。

- VM 名を自動作成するための VM 名テンプレート
- ホスト名テンプレート
- VM イメージのタイプ
- OS ライセンス プールの製品 ID
- ポリシーを使用する導入のタイム ゾーン
- このポリシーによる導入に使用されるドメインおよび/またはワークグループ

ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー（Policies）] > [仮想/ハイパーバイザ ポリシー（Virtual/Hypervisor Policies）] > [サービスの提供（Service Delivery）] を選択します。

ステップ 2 スクロールして、[HyperV の導入ポリシー（HyperV Deployment Policy）] タブを探してクリックします。Cisco UCS Director の Hyper-V 導入ポリシーが表示されます。[HyperV の導入ポリシー（HyperV Deployment Policy）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
[更新（Refresh）]	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
[追加（Add）]	Hyper-V 導入ポリシーを追加します。

OS ライセンスを選択すると、以下のアクションが表示されます。

ボタン名	説明
[表示（View）]	Hyper-V 導入ポリシーを表示します。
[編集（Edit）]	Hyper-V 導入ポリシーを編集します。
[削除（Delete）]	Hyper-V 導入ポリシーを削除します。
[複製（Clone）]	Hyper-V 導入ポリシーを複製します。

Hyper-V 導入ポリシーの追加

ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー（Policies）] > [仮想/ハイパーバイザ ポリシー（Virtual/Hypervisor Policies）] > [サービスの提供（Service Delivery）] を選択します。

ステップ 2 [HyperV 導入ポリシー（HyperV Deployment Policy）] タブをクリックします。

ステップ 3 [追加（Add）] をクリックします。

ステップ 4 [ポリシーの追加（Add Policy）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[ポリシー名（Policy Name）] フィールド	Hyper-V 導入ポリシーの名前。
[ポリシーの説明（Policy Description）] フィールド	Hyper-V 導入ポリシーの説明。
[導入後に電源をオンにします（Power On after deploy）] チェックボックス	このポリシーを使用して導入されたすべての VM の電源を自動的にオンにする場合はオンにします。

名前	説明
[VM 名のテンプレート（VM Name Template）] フィールド	形式 ${VARIABLE} で宣言された VM 名生成用の VM 名テンプレート。例：vm-${GROUP_NAME}-SR${SR_ID} 次の変数名を使用できます。 • CLOUD_NAME：導入されているクラウドの名前。 • GROUP_NAME：VM が属するグループの名前。 • CATALOG_NAME：カタログ項目またはエントリの名前。 • USER：要求元のユーザ ID。 • SR_ID：サービス リクエスト ID。 • COMMENTS：要求元のユーザのコメント。 • PROFILE_NAME：ポリシーの名前。 • LOCATION：クラウドの作成時に指定されるロケーションの名前。 • UNIQUE_ID：名前を一意にするランダム ID。 • APPCODE：カタログの作成時に指定されるアプリケーション コード値。 • COST_CENTER：グループまたは顧客組織の作成時に指定される、グループまたは顧客組織を関連付けるコスト センター。 （注） [VM 名テンプレート（VM Name Template）] の末尾に # 文字を追加して、VM名の一意のインデックス番号を作成することができます。これは倍数で指定できます。たとえばVM名テンプレートが **vm-${GROUP_NAME}##** の場合、このポリシーによってプロビジョニングされる最初の VM の VM 名は **vm-ABCD01** です（グループ名が ABCD で、01 が ## に相当します）。
[VM 名の再利用（Recycle VM Name）] チェックボックス	デフォルトでは、新規 VM を作成する場合には、以前プロビジョニングされたが現在使用停止している VM 名が使用されます。以前使用していた VM 名を再利用しない場合は、オフにします。
[エンドユーザ VM 名または VM プレフィクス（End User VM Name or VM Prefix）] チェックボックス	VM のプロビジョニング時にサービス リクエストのカスタム仕様ページでエンドユーザが指定した VM プレフィックスを追加する場合は、オンにします。

名前	説明
[ホスト名のテンプレート（Host Name Template）] フィールド	形式${VARIABLE} で宣言されたホスト名生成用のホスト名テンプレート。例：host-${GROUP_NAME}-SR${SR_ID} 次の変数名を使用できます。 • CLOUD_NAME：導入されているクラウドの名前。 • GROUP_NAME：VM が属するグループの名前。 • CATALOG_NAME：カタログ項目またはエントリの名前。 • USER：要求元のユーザ ID。 • SR_ID：サービス リクエスト ID。 • COMMENTS：要求元のユーザのコメント。 • PROFILE_NAME：ポリシーの名前。 • LOCATION：クラウドの作成時に指定されるロケーションの名前。 • UNIQUE_ID：名前を一意にするランダム ID。 • APPCODE：カタログの作成時に指定されるアプリケーション コード値。 • COST_CENTER：グループまたは顧客組織の作成時に指定される、グループまたは顧客組織を関連付けるコスト センター。 （注） [ホスト名テンプレート（Host Name Template）] の末尾に # 文字を追加して、ホスト名の一意のインデックス番号を作成することができます。これは倍数で指定できます。 （注） ホスト名は 15 文字以内で、Windows NetBIOS の制限に準拠する必要があります。この制限は、Windows VM と Linux VM の両方に適用されます。
[ホスト名の再利用（Recycle Host Name）] チェックボックス	デフォルトでは、新規ホストを作成する場合には、以前プロビジョニングされたが現在使用停止している VM のホスト名が使用されます。以前使用していたホスト名を再利用しない場合は、オフにします。
[エンドユーザ ホスト名またはホスト プレフィックス（End User Host Name or Host Prefix）] チェックボックス	ホストのプロビジョニング時にサービス リクエストのカスタム仕様ページでエンドユーザが指定したホスト プレフィックスを追加する場合は、オンにします。
[タイムゾーン（Time Zone）] ドロップダウン リスト	このポリシーを使用する VM のタイム ゾーンを選択します。

名前	説明
[GUI で 1 回実行するコマンド（GUI Run Once Commands）] フィールド	このポリシーを使用する VM のプロビジョニング後に VM 内で実行するコマンド。例：`cmd.exe/c md c:\newfolder`
[VM イメージのタイプ（VM Image Type）] ドロップダウン リスト	デフォルトでは、VM イメージ タイプとして [Windows および Linux（Windows and Linux）] が表示されます。 [Linux のみ（Linux Only）] を選択すると、[ポリシーを追加（Add Policy）] ダイアログ ボックスがさらに表示されます。 Linux のみの VM イメージの場合は、必須のフィールドに入力します。
Linux パラメータ（Linux Parameters）	
[ルートパスワード（Root Password）] フィールド	Linux マシンのルート パスワード。
[DNS ドメイン名（DNS Domain Name）] フィールド	DNS ドメインの名前。
Windows パラメータ（Windows Parameters）	
[製品 ID（Product ID）] フィールド	Windows 製品 ID またはライセンス キー。 （注） この値が OS ライセンス プールの値に一致しない場合、その値によってここで指定したキーが上書きされます。
[管理者パスワード（Administrator Password）] フィールド	テンプレートの管理者パスワード。
[組織名（Organization Name）] フィールド	VM のオペレーティング システムに設定する組織名。
[正式名称（Full Name）] フィールド	組織の正式名称。
[ドメインまたはワークグループ（Domain/Workgroup）] ドロップダウン リスト	[ワークグループ（Workgroup）] または [ドメイン（Domain）] のいずれかを選択します。 [ドメイン（Domain）] を選択した場合は、必須のフィールドに入力します。
[ワークグループ（Workgroup）] フィールド	ワークグループ名。

ステップ 5 [Linux のみ（Linux Only）] の VM イメージの場合は、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[ポリシー名（Policy Name）] フィールド	Hyper-V 導入ポリシーの名前。
[ポリシーの説明（Policy Description）] フィールド	Hyper-V 導入ポリシーの説明。
[導入後に電源をオンにします（Power On after deploy）] チェックボックス	導入後に VM の電源を自動的にオンにする場合は、このチェックボックスをオンにします。
[VM 名のテンプレート（VM Name Template）] フィールド	VM 名テンプレート。
[ホスト名のテンプレート（Host Name Template）] フィールド	ホスト名テンプレート。
[タイムゾーン（Time Zone）] ドロップダウン リスト	このポリシーを使用する VM のタイム ゾーンを選択します。
[GUI で 1 回実行するコマンド（GUI Run Once Commands）] フィールド	このポリシーを使用する VM のプロビジョニング後に VM 内で実行するコマンド。例：`cmd.exe/c md c:\newfolder`
[VM イメージのタイプ（VM Image Type）] ドロップダウン リスト	[Linux のみ（Linux Only）] を選択します。
[ルートパスワード（Root Password）] フィールド	Linux マシンのルート パスワード。
[DNS ドメイン名（DNS Domain Name）] フィールド	DNS ドメインの名前。

ステップ 6 [ドメイン（Domain）] を選択した場合は、以下のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[ドメイン（Domain）] フィールド	ドメイン名。
[ドメインユーザ名（Domain Username）] フィールド	ドメイン ユーザ名。ユーザ名の形式は domain\username です。
[ドメインパスワード（Domain Password）] フィールド	ドメイン パスワード。

ステップ 7 [送信（Submit）] をクリックします。

Hyper-V コンピューティング ポリシーの追加

ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー（Policies）] > [仮想/ハイパーバイザポリシー（Virtual/Hypervisor Policies）] > [コンピューティング（Computing）] を選択します。

ステップ 2 [HyperV コンピューティング ポリシー（HyperV Computing Policy）] タブをクリックします。

ステップ 3 [追加（Add）] をクリックします。

ステップ 4 [ポリシーの追加（Add Policy）] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに入力します。

（注） フィールドは選択した SCVMM クラウドのバージョンによって異なる場合があります。

名前	説明
[ポリシー名（Policy Name）] フィールド	ポリシー名。
[ポリシーの説明（Policy Description）] フィールド	ポリシーの説明。
[クラウド名（Cloud Name）] ドロップダウン リスト	クラウド名を選択します。
[ホストノードまたはクラスタスコープ（Host Node/Cluster Scope）] ドロップダウン リスト	ホスト ノードの範囲を絞り込む場合は、別のオプションを選択します。デフォルトは、[すべて（All）] です。
[選択済みのホスト ノード（Selected Host Nodes）] フィールド	このフィールドは、[ホスト ノードまたはクラスタ スコープ（Host Node/Cluster Scope）] ドロップダウン リストでホストを含める、または除外するように選択した場合に表示されます。 [選択（Select）] をクリックして、含めるホスト ノードまたは除外するホスト ノードを選択します。
[SCVMM クラウドの関連付け（Associate SCVMM Cloud）] ドロップダウンリスト	選択された SCVMM クラウドに応じてリソースの割り当てが変わります。
[別の CPU タイプへの移行を許可（Allow Migration to Different CPU Type）] チェックボックス	プロビジョニング済み VM の別の CPU タイプへの移行を許可するには、このチェックボックスをオンにします。移行を許可しない場合はオフのままにします。

名前	説明
[ハイアベイラビリティを有効にする（Enable High Availability）] チェックボックス	ハイアベイラビリティを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。 （注） このオプションでは、クラスタ リソースに VM を導入する必要があります。ストレージ ポリシーのクラスタ CSV とクラスタで使用できる一般的な仮想スイッチを選択してください。
[フィルタ条件（Filter Conditions）] チェックボックス	適用する条件をオンにします。これらの条件を満たしていないホストが除外されます。選択した [条件の最小値（Minimum Conditions）] ごとに、ブール演算子を選択し、それぞれのテキストフィールドに条件値を入力します。 （注） 複数の条件を選択した場合は、選択されたすべての条件を満たす必要があります。
[導入オプション（Deployment Options）]	
[テンプレートのオーバーライド（Override Template）] チェックボックス	導入中にテンプレートのプロパティを上書きする場合は、このチェックボックスをオンにします。 オンになっている場合は、必須のフィールドを入力します。
[サイズ変更オプション（Resizing Options）]	
[VM のサイズ変更を許可（Allow Resizing of VM）] チェックボックス	プロビジョニングの前後で VM のサイズ変更を許可する場合は、このチェックボックスをオンにします。 オンになっている場合は、必須のフィールドを入力します。

ステップ 5 テンプレートを上書きするには、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
[vCPU 数（Number of vCPUs）] フィールド	vCPU の数。
[動的メモリの有効化（Enable Dynamic Memory）] チェックボックス	動的メモリを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[メモリ（MB）（Memory (MB)）] フィールド	割り当てるメモリ。

ステップ 6 VM のサイズ変更を許可するには、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
[vCPU の許容値（Permitted values for vCPUs）] フィールド	許容される vCPU の個々の値。
[メモリの許容値（MB 単位）（Permitted values for Memory in MB）] フィールド	許容されるメモリの個々の値（MB）
[起動メモリの許容値（Permitted values for Startup Memory）] フィールド	許容される起動メモリの個々の値（MB）
[最大メモリの許容値（MB 単位）（Permitted values for Maximum Memory in MB）] フィールド	許容される最大メモリの個々の値（MB）
[メモリ バッファの許容値（%）（Permitted values for Memory Buffer (%)）] フィールド	許容されるメモリ バッファの個々の値（%）

ステップ 7 [送信（Submit）] をクリックします。

Hyper-V ネットワーク ポリシーの追加

ネットワーク ポリシーでは、ホスト ノードで使用する仮想ネットワークのタイプを定義します。また、次の項目を指定することもできます。

- プロビジョニングされた VM に割り当てるアダプタのタイプ
- VLAN の有効化
- 複数の vNIC に適用するポリシーの拡張

ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー（Policies）] > [仮想/ハイパーバイザ ポリシー（Virtual/Hypervisor Policies）] > [ネットワーク（Network）] の順に選択します。

ステップ 2 スクロールして、[Hyper-V ネットワーキング ポリシー（Hyper-V Networking Policy）] タブをクリックします。

ステップ 3 [追加（Add）] をクリックします。

ステップ 4 [ネットワーク ポリシーの情報（Network Policy Information）] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[ポリシー名（Policy Name）] フィールド	ポリシー名。
[ポリシーの説明（Policy Description）] フィールド	ポリシーの説明。
[クラウド名（Cloud Name）] ドロップダウン リスト	クラウド名を選択します。
[エンドユーザにオプションの NIC の選択を許可（Allow end user to select optional NICs）] チェックボックス	エンドユーザにオプションの NIC の選択を許可するには、このチェックボックスをオンにします。
[VM NIC（VM NIC（s））] フィールド	ネットワーク ポリシーに追加する VM NIC のリスト。 [+] アイコンをクリックして、VM NIC を追加します。

ステップ 5 ネットワーク ポリシーに VM NIC を追加するには、[VM NIC へのエントリの追加（Add Entry to VM NICs）] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[NIC エイリアス（NIC Alias）] フィールド	VM ネットワークの NIC エイリアスの名前。
[必須（Mandatory）] チェックボックス	[エンドユーザにオプションの NIC の選択を許可（Allow end user to select optional NICs）] チェックボックスをオンにすると、このチェックボックスが有効になります。NIC エイリアスの設定を必須にする場合は、このチェックボックスをオンにします。
[エンドユーザによる VM ネットワーク選択を許可（Allow end user to choose VM Networks）] チェックボックス	VM のプロビジョニング時にエンド ユーザが VM ネットワークを選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[アダプタのタイプ（Adapter Type）] ドロップダウン リスト	アダプタ タイプとして [模擬（SYNTHETIC）] または [エミュレート済み（EMULATED）] を選択します。
[VM ネットワーク（VM Networks）] フィールド	NIC エイリアスに追加する VM ネットワークのリスト。 [+] アイコンをクリックして、VM ネットワークを追加します。

ステップ 6 ネットワーク ポリシーにVMネットワークを追加するには、[VMネットワークへのエントリの追加（Add Entry to VM Networks）] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[ネットワーク名（Network Name）] フィールド	[選択（Select）] をクリックしてネットワークを選択します。
[VM ネットワークへのエントリの追加（Add Entry to VM Networks）] ダイアログ ボックスに表示されるフィールドは、[ネットワーク名（Network Name）] フィールドで選択したネットワーク モデルによって異なります。	
[サブネット（Subnet）] ドロップダウン リスト	このフィールドは、外部ネットワークまたは仮想化ベースの VM ネットワークを選択した場合に表示されます。ドロップダウン リストからサブネットを選択します。
[VLAN ID] ドロップダウン リスト	このフィールドは、分離なしの仮想化ベースのネットワークを選択した場合に表示されます。ドロップダウン リストから VLAN ID を選択します。
[MAC スプーフィングの有効化（Enable MAC Spoofing）] チェックボックス	出荷時に割り当てられている NIC の MAC アドレスの変更を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[DHCP の使用（Use DHCP）] チェックボックス	DHCP サーバを使用してネットワーク上のデバイスに動的な IP アドレスを割り当てるには、このチェックボックスをオンにします。
[静的 IP プール（Static IP Pool）] ドロップダウン リスト	このフィールドは、[DHCP の使用（Use DHCP）] チェックボックスがオフの場合に表示されます。SCVMM の IP プール リストから静的 IP プールを選択します。
[ポート分類（Port Classification）] ドロップダウン リスト	（オプション）選択したネットワークに基づいて表示されるリストからポート分類を選択します。

ステップ 7 [送信（Submit）] をクリックします。

Hyper-V ストレージ ポリシーの追加

ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー（Policies）] > [仮想/ハイパーバイザポリシー（Virtual/Hypervisor Policies）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 [HyperV ストレージ ポリシー（HyperV Storage Policy）] タブをクリックします。

ステップ 3 [追加（Add）] をクリックします。

ステップ 4 [ポリシーの追加（Add Policy）] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに入力します。

（注） フィールドは選択した SCVMM クラウドのバージョンによって異なる場合があります。

名前	説明
[ポリシー名（Policy Name）] フィールド	ストレージ ポリシー名。
[ポリシーの説明（Policy Description）] フィールド	ストレージ ポリシーの説明。
[クラウド名（Cloud Name）] ドロップダウン リスト	SCVMM クラウド名を選択します。
[スコープ（Scope）]	
[データストアのスコープ（Data Stores Scope）] ドロップダウン リスト	データストアの範囲を絞り込む場合は、別のオプションを選択します。デフォルトは、[すべて（All）] です。
[選択済みのデータストア（Selected Data Stores）]	このフィールドは、[データストアのスコープ（Data Stores Scope）] ドロップダウン リストでデータストアを含める、または除外するように選択した場合に表示されます。 [選択（Select）] をクリックして、含めるデータ ストアまたは除外するデータ ストアを選択します。
[CSV の使用（Use CSV）] チェックボックス	CSV を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 （注） クラスタ リソースに VM を導入する場合は、CSV が必須です。
[ストレージ オプション（Storage Options）]	
[ローカルストレージの使用（Use Local Storage）] チェックボックス	ローカル ストレージを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。

名前	説明
[SAN の使用（Use SAN）] チェックボックス	ストレージエリアネットワーク（SAN）を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[SMB の使用（Use SMB）] チェックボックス	サーバ メッセージ ブロック（SMB）を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[条件の最小値（Minimum Conditions）] チェックボックス	適用する条件をオンにします。これらの条件を満たしていないデータストアが除外されます。選択した [条件の最小値（Minimum Conditions）] ごとに、ブール演算子を選択し、それぞれのテキストフィールドに条件値を入力します。 （注） 複数の条件を選択した場合は、選択されたすべての条件を満たす必要があります。
[導入オプション（Deployment Options）]	
[テンプレートのオーバーライド（Override Template）] チェックボックス	導入中にテンプレートのプロパティを上書きする場合は、このチェックボックスをオンにします。 オンになっている場合は、必須のフィールドを入力します。
VM ライフサイクルのサイズ変更オプション（Resizing Options for VM Lifecycle）	
[ディスクのサイズ変更を許可（Allow Resizing of Disk）] チェック ボックス	ディスクのライフサイクル中にディスクのサイズを変更できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[GB 単位のディスクの許容値（Permitted Values for Disk in GB）] フィールド	このフィールドは、[ディスクのサイズ変更を許可（Allow Resizing of Disk）] チェックボックスをオンにした場合に表示されます。許容されるディスクの値（GB）。
[スコープからのデータストアの選択をユーザに許可します（Allow user to select datastores from scope）] チェックボックス	スコープからのデータ ストアの選択をユーザに許可するには、このチェックボックスをオンにします。

ステップ 5 テンプレートを上書きするには、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
[動的プロビジョニングの使用（Use Dynamic Provisioning）] チェックボックス	動的メモリを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。

名前	説明
[カスタムディスク サイズ（GB）（Custom Disk Size (GB)）] フィールド	割り当てるカスタム ディスク サイズ。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。